

科目番号	2	科目名	経済学からの問い	
英文科目名				
大学・短期大学名	滋賀		大学	
連絡先	滋賀大学学務課総務係			
	TEL :	0749-27-1017	FAX :	0749-24-5122
担当教員	室 徳圭 (経済 学部 特別招聘准教授)			
実施方法	対面授業 遠隔授業 対面・遠隔併用			
教室名	初回授業時に窓口で案内	会場	彦根キャンパス	
授業期間	2025 年 4 月 8 日 (火) ~ 2025 年 7 月 22 日 (火) <毎週 火曜日> 時限・講時 10 : 30 ~ 12 : 00			
超過時の選考方法	書類により選考			
成績評価方法	定期試験 (筆記)	70		%
	レポート試験 (期末)			%
	平常点 (出席・授業態度)	10		%
	その他 (課題)	20		%
別途負担費用	なし		あり()円	
その他特記事項	<p><講義概要・到達目標></p> <p>【授業の目的と概要】 社会生活を営む上で必要なお金あるいは金融商品について、その基礎的知識(金利、リスクとリターンの関係など)を習得し、それを使えるようになることを目的とします。このため、基本的には金融ユーザー(特に生活者)の側に目線を置き、初歩の経済学的・金融論的視点を加味しつつ授業を進めます。なお、お金に関連する金融機関や金融市場などについても可能な範囲で触れる予定です。それを学ぶことで、経済の中でも生活に密着した範囲について学ぶ予定です。</p> <p>【授業形態】対面授業(※毎回出席をとります。)</p> <p>※ 授業において様々な金融商品のうちいくつかについてその特徴を説明しますが、それは金融商品に関する基礎的知識を持ってもらう学習の一環として紹介するものであって、特定の金融商品を推奨するものではありません。</p> <p>【授業の到達目標】 大学生あるいは社会人として生活する上で必要なお金あるいは金融商品に関する基礎的知識を習得し、それを基に適切な判断・行動ができるようになること(いわゆる金融リテラシーの基礎の習得)を目標とします。経済学部のディプロマポリシーの「経済についての専門的な知識と思考力を習得している。」に関連付けられます。</p> <p>【事前学習・事後学習など授業時間外の学習】 基本的には授業計画に記載した内容を、教科書を適宜併用しつつ進めていきますが、教科書に書かれているトピックの順番を適宜入れ替えて取り上げることがあります。なお、必要に応じて補助教材を使用します。講義の最後に次回のテーマについて言及しますので、しっかりと予習・復習をして講義に臨むことを望みます(3時間程度)。 簡単な課題(成績評価の対象)を出題する可能性があります。</p>			

<授業スケジュール>		
回	月日	テーマ・キーワード
1	4月8日	イントロダクション
2	4月15日	人生のデザインとお金
3	4月22日	お金の知恵(お金の特徴)
4	4月29日	お金の知恵(収入を把握する)
5	5月13日	お金の知恵(支出を把握する・お金の使い方)
6	5月20日	お金の知恵(お金を貯める・お金を運用する)
7	5月27日	お金の知恵(お金を運用する)
8	6月3日	お金の知恵(お金を運用する)
9	6月10日	お金の知恵(お金を運用する)
10	6月17日	お金の知恵(お金を運用する・お金を借りる)
11	6月24日	お金の知恵(お金を借りる)
12	7月1日	お金の知恵(損失に備える)
13	7月8日	不確実な人生に船出する
14	7月15日	不確実な人生に船出する(お金に関するトラブルを避ける)
15	7月22日	不確実な人生に船出する(お金に関するトラブルを避ける)、まとめ
<教科書・参考書>		
【教科書1】		
書名 大学生のための人生とお金の知恵 著者名 金融広報中央委員会 出版年 2017		
【教科書2】		
書名 基礎から学べる金融ガイド 著者名 金融庁 出版年 2016		
【参考書1】		
ISBN 9784847095894 書名 エコノミストの父が、子どもたちにこれだけは教えておきたい大切なお金の話 著者名 永濱利廣 出版社 ワニ・プラス 出版年 2017		
【参考書2】		
書名 金融経済教育研究会報告書 著者名 金融経済教育研究会 出版年 2013		
【教材に対する補足情報】 (教科書)		
『大学生のための人生とお金の知恵』は https://www.shiruporuto.jp/public/data/magazine/daigakusei/pdf/daigakusei.pdf から、また『基礎から学べる金融ガイド』は http://www.fsa.go.jp/teach/kou3.pdf から、それぞれダウンロードできます。		
(参考書)		
参考書1は、本分野について読みやすいということで挙げています。また、参考書2は、講義で取り扱う「金利」に関連するトピックについて分かりやすく書かれています。参考書3は、このテーマに関する教育が必要とされている背景について説明されています。なお、参考書3は http://www.fsa.go.jp/frtc/kenkyu/20130430/01.pdf からダウンロードできます。		